

ヤハズソウ（矢筈草）カメ科ヤハズソウ属 *花期＝8～10月

陽当たりの良い道端や河川敷に良く見かける、今回も河川敷を歩いている時に多く有り踏みつけて歩いていた。名前の由来＝葉の先を引つぱると葉脈に沿って弓矢の矢の矢筈（V）形になるので。矢筈は矢の後のV字形の切れ込みのことを言います。ヤハズソウは漢方薬としても重宝されているその薬効は、腹痛、伝染性疾患、マラリヤ、高血圧症、ストレス、等々多くの薬効があると言われています、乾燥させ煎じて服用すると良いといわれる



イチョウ（銀杏）イチョウ科イチョウ属 *花期＝4～5月

イチョウは化石の木と言われます、野生のイチョウの木はありません。全て植栽されたものです、恐竜が繁栄していたころは17種類のイチョウの木があった、氷河期に絶滅の危機にあったが比較的暖かであった中国中部で1種類のイチョウが残り、それが世界中に広がったので現在イチョウの木は1種類のみです。日本にはいつ渡来したか不明であるが鎌倉幕府時代にすでに存在していた。



イチョウの木は雌雄異株、その受精の仕方が他の植物と違う、雌蕊は受粉した雄蕊の花粉を胚珠の中に4ヶ月ほど貯えて置き9～10月頃雄蕊の花粉は精子の様に泳いで雌蕊の子房に行きます、この様な受粉をするのにソテツがあります、まったく似ていない2つの植物が何故同じ受精方法なのか？太古の時代は近縁種？であつたか、これを発見したのは双方とも日本の学者です。枝の葉痕を調べるとその枝の年数が判ります。イチョウの葉は漢方薬としても使われている、血流改善や認知症予防、ギンナンは利尿作用があり子供の夜尿症対策に効果がある、ギンナンの栄養素、ビタミンC、カリウム、鉄、マグネシウムを含んでいる、毒性もあるメチルピリドキシンを含んでいるので大人の場合でも食べるのは6粒を限度とする、吐き気、嘔吐、下痢、を起こす場合がある、*花言葉＝荘厳、長寿、鎮魂
身近にあり誰でも名前を知っている木だが、その故事来歴や植物では非常に珍しい受粉をしているので、少し詳しく記した

オオマツヨイグサ（大待宵草）アカバナ科マツヨイグサ属*花期6～8月

名前の由来＝宵を待つて大きな花を咲かせるので、マツヨイグサには4種類あつてその中で一番大きいので。その4種類のうちのこり3種類は、コマツヨイグサ、マツヨイグサ、メマツヨイグサ、コマツヨイグサは葉に切れ込みがあり地を這って繁茂花が萎むとオレンジ色になる、マツヨイグサ母に切れ込みない、花が萎むとオレンジ色になる、メマツヨイグサは花卉の先が凹んでいて等の違いがある、今回河川敷で多く見たのは種子の状態より見る事が出来なかったが、背が高く大きいのでオオマツヨイグサと同定した、正確な起源は不明で、恐らく北アメリカからヨーロッパに渡り品種改良された雑種と考えられている、日本には明治初期に観賞用として輸入されたものが逸出して野生化した帰化植物です、*花言葉＝打ち明けられない恋、無言の恋、自由な心、美人、うつろな恋、移り気なひと。：なぜこの様に多い花言葉があるか？竹下夢二が作詞した歌曲、「宵待草」に由来している。「待てど暮らせど来ぬ人を 宵待草のやるせなさ 今宵は月も出ぬならば・・・」これは実の事なく終わった、ひと夏の切ない恋をうたったのでこの様に多い花言葉が出来た。



ハキダメギク（掃溜菊）キク科コゴメギク属 *花期＝6～9月

名前の由来＝大正時代植物学者「牧野富太郎」が東京の掃溜めに咲いているのを見つけたところからの命名、掃溜めとは、ゴミを掃いて溜めて場所、又ゴミを入れて置くところ。掃溜めに鶴ではないが、可憐な小さな花を無数にさかせるので好まれている。今回のコスモスが植えられている中に、ものすごく群生していて、花期を外れているのに無数に花を咲かせていた。北アメリカ原産の1年草、特徴は白い花卉の先端が3裂しており、中心の黄色が目立つ。葉は卵状で波状の浅い鋸歯がある現在では関東以西に広く分布している、*花言葉＝豊富、不屈の精神



その他多く観察した植物、



アレチハナガサ



セイバンムロコシ



メヒシバ



エノコログサ



オヒシバ



セイタカアワダチソウ